



母校へのご寄付のお願い

新血脇記念ホール・東京歯科大学ミュージアム(仮称) の建設・整備のために

平成 23 年 9 月吉日
学校法人東京歯科大学
理事長 金子 譲
学 長 井出 吉信

同窓の皆様の母校に対する日頃変わらぬご支援にお礼を申し上げます。創立 120 周年を迎えました母校は、昨年 5 月の三笠宮殿下、同妃殿下のご臨席を賜りました記念式典、そして祝賀会・講演会を無事つつがなく執り行うことができました。記念学術講演会におきましては再生医学を主体にした種々の今日的課題により将来の歯科医学・歯科医療の姿も実感することができました。

不透明な日本経済の最中での記念事業ではありましたが、出席者の皆様と同じ思いの時間を共有し、われわれの先達が、時代の変遷を掴みながら常に夢を追いかけてきたことに改めて胸を打たれましたし、高い目標の目線を持つ東京歯科大学の伝統の源泉が理解できた気分になったことなど、楽しくも背筋が張った会に成り得たことは、一重に皆様のお気持ちによったものと感謝しております。

平成 19 年度に大学法人理事会・評議員会で決定されました千葉キャンパスの水道橋移転に関しましては、すでにご案内の通り平成 24 年 4 月には水道橋の新校舎に新生を迎えます。東京歯科大学は限られた資源を集中・有効に投下しながら、無限の「知」を軸において大学機能の今後を策定・創造していく地を再び水道橋に求めました。21 世紀における高等教育のあり方は、グローバル化進展とあわせて従前の枠を超越した考え方が必要とされております。歯科医学教育においては専門職業人養成であります。だからといって今後の高等教育の潮流からの例外とはなりえません。日本の人口構造が大きく変わっていくなかで、多様・高度な首都環境を十全に利用したダイナミックな将来創りに、母校は第一歩を踏み出しております。

幸い土地・中古ビル等の取得、TDC ビルからのテナント様の退去など新キャンパスに必要な準備も順調に進み、一昨年からは TDC ビル上層階を会場として

入学試験を実施いたしましたし、さいかち坂校舎・新館校舎（仮称）そして病院などの建築は、すでに新築・改修に着手しております。これからは、今後数年にわたる移転時期とその後の学務に関する広範なソフト造りに入ります。学部・卒後研修そして大学院を通じて確かな臨床力を備えた人間性豊かな人材の育成を主体に、生涯研修も含めて母校が大いに社会と連携できるよう努力していきたいと教職員一同願っています。

リーマンブラザーズ恐慌、歯学部受験生の激減、さらには東日本大震災、歯学部募集定員不足大学の多数発生などと移転決定後の社会変動は予測を超えた事態が早い速度で生じております。

医療費抑制、日本経済低迷の現実のなかでのご寄付のお願いは、母校発展のためとはいえ心苦しいところではありますが、高山歯科医学院・東京歯科医学院・東京歯科医学専門学校そして東京歯科大学と一貫した精神であります「開拓・創造」と「先導性」を教育・研究・診療で今後とも継続するために皆様の物心両面からのご支援を切にお願いいたします。

募金は、標記 2 施設の建築費・設備・整備に充当させていただきます。新校舎には 2 階分を使用して約 400 名収容のホールを設置いたします。従前の平面床ではなく固定椅子の傾斜床とし、大学事業での使用以外、学会、研修会等に開放をいたします。このホールには母校の精神的バックボーンとなっています血脇イズム継承のため現在と同様「血脇記念ホール」の名称にしたいと考えております。もう 1 施設は血脇記念ホールと同フロアに作ります資料展示室であります。千葉校舎の資料室を移転し、「東京歯科大学 デンタル ミュージアム（仮称）」として、学内への展示に留めることなく、血脇記念ホール利用者等に開放する方針であります。東京歯科大学の歴史は、歯科医学教育また歯科医療の発展に関する文化史でもありますので、この公開は一般市民への歯科の広報となり、大学の社会連携の部分にも相当いたしますので、小さくても充実させて水道橋の名所になるように意図しております。

あらゆる大学が、競争に打ち勝てるよう改革に改革を重ねております。われわれの目標とするところは、東京歯科大学にいかにか社会性を持たせるかということで、俗に言えばブランドを作ることで受験生の憧れとし、患者さんが受診したい病院とし、研究によって歯科医療・医療の発展に貢献することで東京歯科大学の確立、言い換えれば母校の「建学の精神」を常に追い求めていくことでもあります。これこそが教職員のみならず学生と共有する「夢」であります。

重ねて母校発展に皆様の大きなご支援をお願いいたします。